

守山市観光まちづくりへの提案

平成25年度 近畿観光まちづくりコンサルティング事業

2014年3月

1. 現状分析と方向性(1)

守山市の観光資源が多岐にわたり豊富であることは、多くの委員が認めたところである。視察した資源では①JAおうみ富士ファーマーズマーケットおうみんち(2.27pt)②佐川美術館(2.25pt)③セトレマリーナびわ湖(2.18pt)の評価が高く、単体としての旅行商品への可能性を見出した。また、京都や大阪などから交通が至便であり、駅前の守山宿でホテルが見られること、市長や行政、民間事業者に熱意を感じたことに好印象を持った。

反面、市内は守山駅周辺、市中央部の田園地帯、リゾート施設がある琵琶湖畔の3ゾーンに分断され2次交通の弱さ、市内観光の連携不足などを多くの委員が指摘した。多様な資源は言い換えれば百花繚乱状態で、守山市の観光イメージの希薄さにつながり、ひいては情報発信の不足につながっていることも委員の共通した認識だった。

そのため現地視察を終え、観光まちづくりの進展へ「弱点(2次交通の不備)を強みに=自転車の活用」「市内、近隣との連携=連携軸となる観光コンセプトの明確化」「市民への観光まちづくりの浸透=住んでよし、訪れてよしのモデル化」の3つを柱に、方向性を見出そうと試みることにした。



1. 現状分析と方向性(2)

アドバイザー会議では、市内観光資源を“つなぐ”連携軸を掲げることが観光まちづくりの進展につながるのではないかと考えた。多様な資源の中に共通して含まれ、守山観光の長所を先鋭化し現状の課題を解決する糸口につながるものを「健康」と見立てることにした。

それは▼健康的な地産地消の食事や青空フィットネス等に取り組む「おうみんち」▼芸術によるヒーリング効果を感じさせる「佐川美術館」▼夏のホテルやまち歩きに可能性を見出した「守山宿」▼古くから健やかに人が暮らしてきた証しである「下之郷史跡公園」▼先端・高度医療を実践する県立成人病予防センターなど、守山市内の資源には全体を通して「健康」が普遍的に存在していると考えたからだった。

加えて、守山観光の課題である2次交通の整備も環境に負荷をかけず健康なまちを維持できる公共交通機関での移動、自転車や歩き観光の推進につながるものとする。また、全国的に希少な人口増のまちにおいて「健康」なまちづくりは住民の理解を得て住民参加を促しやすいキーワードであるとも考えられる。



「健康」をテーマにした観光まちづくり



2. 観光まちづくりの方策（1）

観光＋健康の情報化を促す

守山市観光の連携軸を「健康」に見出したことで、多様な観光資源個々の“点”から複数の資源をつなぐ“線”へとする方向性を示した。さらに、健康に先鋭化することで守山市の総合力を発揮する“面”としての取り組みが生じる。健康を志向することで市民参画を促し、その結果として観光まちづくりが進展し、住んでよし訪れてよしへと市民生活と観光の融合も図れるのではないかと考える。市民の関与が深まれば情報発信力が高まり、資源間の2次交通を整備する気運にもつながってくるのではないだろうか。

「健康」観光の視点から、視察した資源を委員で評価してみた。

- ・ **中山道・守山宿**＝ウォーキングフィールドとして活用する。特に、類例のない駅前ホテル観賞ウォーキングで独自性がアピールができる。
- ・ **弥生遺跡群**（下之郷史跡公園）＝ウォーキングやサイクリングの立ち寄り拠点と位置づける。当時の食文化や生活体験ができるようにしたい。
- ・ **おうみんち**＝健康なまち守山の拠点として、地産地消の食事に伴う食育や体験プログラムをさらに充実。地球市民の森などと一体になった健康増進プログラムも開発したい。
- ・ **佐川美術館**＝第一級の展示作品を活かしアートセラピー、ヒーリングの施設としても活用。

2. 観光まちづくりの方策（2）

観光＋健康による情報化を促す

・琵琶湖・ピエリ守山＝ピエリをウォーキングやサイクリングの拠点とし、健康をテーマにしたイベントを実施したい。周辺大型店舗との差別化にもつながる。

・成人病予防センター＝メディカルツアーの拠点として国内外から診察者を受け入れ、市内健康観光（ヘルスツーリズム）の学術的な裏付けを実証する。

こうした観光資源の見直し、先鋭化によって、健康をテーマにした観光まちづくりを進める上でのそれぞれが担う役割（健康コンテンツ）が明確になっていく。それに伴い、健康観光を切り口とした駅前観光案内所の多機能化、医農工商連携等による食・物産の開発、観光ボランティアガイドや健康づくり指南役といった人材育成にもつながっていくものと思われる。

特に、守山市では現在、JR守山駅＝成人病予防センター・市民病院＝運動公園（約2キロ）を「健やか回廊」として位置づける取り組みを進めているのははじめ、健康創生特区を申請している。これは、血液検査を身近に受けられたり、市民の健康づくりの取り組みをポイント化して地域通貨的に還元しようという試みで、委員の1人が指摘していた薬局や病院、保健施設等を「健康情報施設」と活用する方向性とも合致する。



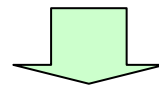
2. 観光まちづくりの方策（3）

観光＋健康の情報化を促す

観光面のみならず、「健やか回廊」など市全体での健康への取り組みは情報価値を生じさせることが期待できる。健康を地域振興に掲げるまちが少なくない中で、観光＋健康に先鋭化することが守山の情報価値であることを認識しておきたい。また、様々な産業が関わることのできる「観光＋健康」まちづくりの取り組みが情報発信のプラットフォームになることも想定できる。

後述するが、情報価値を生じさせるための打ち上げ花火的なイベント、観光健康プログラムの充実などに取り組むことは重要だ。市民への周知、市外など市場に向けて戦略的に発信することをつねに意識して取り組む必要がある。

観光＋健康のまちづくりを進める上で、守山市から何が発信できるか。どこの誰に届けるべきかをつねに念頭に置き、守山市で暮らし、訪れる価値を継続して伝えていくことが肝要だと考える。



健康を前面にした観光情報で発信価値の創出

2. 観光まちづくりの方策（4）

観光＋健康情報の価値を創出する

ここまで「健康」によって観光情報の価値を創出することを説いた。

これは、何人かの委員が指摘している守山＝観光のイメージに乏しいことに由来する。

守山宿や弥生遺跡群の歴史的な価値は否定しないが、京都や奈良、湖北地域が近接し相対的に歴史価値の訴求力は弱くなってしまう。同様に市内観光資源を周辺の他地域や市町と比較した場合に相対的にどのポジションに位置づけられるかの認識が観光まちづくりを進める上で大切だと思われる。

おうみんちが委員の評価を集めたのは、農業体験を青空フィットネスと銘打ったことや、鍋の材料を畑で収穫する切り口が他にないユニークな取り組みだったからである。つまり、数多ある農業体験の視点を変えて打ち出したことによって、おうみんちでの農業体験に価値を創出したことになったわけだ。このことは、守山市の観光資源の価値を創出することにつながる。アドバイザー会議では、その視点を「健康」とすることを提案している。

繰り返しになるが、アドバイザー会議では「守山でなければならない」必然性を先鋭化することが観光まちづくりの方向性になると考えている。多様で豊富な観光資源を「健康」のフィルターを通してみることで、観光情報としての価値が生じることを提案したいのである。

3. 観光まちづくりの具体策（1）

“観光＋健康のまち”を具現化する

守山市が「史書」に初めて登場するのは、現地研修で意見交換会を行った「あまが池」だった。「池の水を飲んで身体を治す」という記述が認められている。野洲川の伏流水が市内に各所に流れ、その昔は泉が自噴してできた池が数多くあり、川もまた自噴する泉に端を発した流れであった。

ドイツを中心に、水を使って自然治癒力を高める「クナイプ療法」が広まっている。ドイツでは保険が適用され病院の正科にもなっている。足湯のように冷水に浸ったり、高圧水を身体にかけたりする治療法で循環器系の病気の治療などに効果が実証されている。

例えば、守山市内を歩き観光で楽しみ、野洲川の伏流水による足湯等を加えることで、日本では数少ないクナイプ療法を実践するまちを名乗れることができる。豊富な水もまた観光資源となりうると言える。

委員からも観光＋健康を具現化する様々な提案がなされている。

- ・ **健康ビオトープ**＝市域全体が健康基地。健康ビオトープ（サテライト＝観光資源）をつないだノルディックウォーク（湖岸～地球市民の森～おうみんち）、アートウォーク（美術館～地球市民の森）

3. 観光まちづくりの具体策（2）

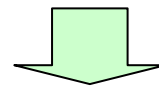
“観光＋健康のまち”を具現化する

- ・琵琶湖・もりやまで“モリハス”する？＝施設ごとに健康プログラムを開発し▼中山道ウォーキングツアー▼おうみんちレストランでの健康メニュー▼佐川美術館で癒されよう▼ピエリ守山で健康ウォーキング、ヨガ
- ・こどもたちが輝く もりやまヘルスツーリズムプログラム（琵琶湖岸での大声発声による健康増強プログラム）＝湖岸ウォーキングやホテル観察ツアー、湖魚や近江米や地元野菜を使ったヘルシー弁当、腹式呼吸による大声発声など（将来は大声大会などのイベントも）
- ・育てる元気 体験！（実践！）もりやま健康プログラム（健康に関するスポーツ、食事、セミナー体験プログラム）＝守山市の関係者の総力を結集し「守山市＝健康創造自治体を印象づける」。生活増進や生活習慣病予防をテーマに様々なスポーツ、食事、セミナーを組み合わせた市民向けのオープンプログラム
- ・健康大好き！歩いて訪ねる「守山野菜物語」～食す・買う・見るウォーク&メディカル～＝滋賀県の野菜を中心とした体験プログラムと町並みや風景を歩きながら健康について考える
- ・観る・視る・診る守山をもっとみて！＝50－70歳の女性グループを対象に成人病予防センターやおうみんち、佐川美術館を見学する1日コース。ホテル観賞を加えた午後の半日コースも。

3. 観光まちづくりの具体策（3）

“観光＋健康のまち”を具現化する

- ・ **みんなで作ろう、モリモリ健康もりやま**＝働く世代の健康プログラム。地産地消を意識した健康弁当の商品化および販売
- ・ **健康な心と身体づくりのまち守山**＝中山道、琵琶湖岸などを中心としたウォーキングコースの設定とイベントの実施
- ・ **めぐって発見!! “びわ湖のまち”もりやま～花、森、食、美～**＝野洲川沿いの花（見て楽しむ）、おうみんち（食べて楽しむ）、地球市民の森（自然を楽しむ）、佐川美術館（芸術を楽しむ）、琵琶湖（感じて楽しむ）などをつないだ“健康を意識した”レンタサイクル（巡回バス）めぐり等のイベント。スタンプラリーなども検討



具現化の共通点：①ウォーキングの推進②食（健康弁当）の開発

食の開発は、農商工連携、医農連携、市民参画のレシピコンテストなど

観光まちづくりのプラットフォームづくりにつながる

3. 観光まちづくりの具体策（4）

“観光＋健康のまち”を具現化する

観光まちづくりを進めていく上で

- ・まずは核となる仕組みを作る

委員の多くが指摘しているように「食」が観光に占めるウエイトは大きい。おうみんちがけん引しており、おうみんちを中心として市内連携による健康メニューの開発に取り組みたい。

また、市民と研究者、ボランティアによるグループで健康素材（健康の宝さがし）を行う。

- ・体制づくり

市長のリーダーシップがはっきりしており、観光まちづくりを進める中核の人材が必要。イベントの開催や食の開発などを通じて「協議会」など市内観光事業者などの関係者が定期的集まる場をつくりたい。その中から、ウォーキングのインストラクターや健康指南役などの人材育成、健康プログラムの発掘開発が進めやすくなると考える。

3. 観光まちづくりの具体策（5）

“観光＋健康のまち”を具現化する

・リピーターする仕掛けをつくる

大規模な集客イベントなど観光は一過性の面が否定できない。逆に健康は1日して成らず。日々の繰り返し、積み重ねでこそ実現する。観光＋健康の意義はそこにある。

健康ステーション＝おうみんち、観光案内所などの観光拠点、健康づくりの拠点としても位置づける。健康ステーションでは市民、観光客の健康カルテを管理（来訪する度に万歩計の歩数、血圧などを記録し、独自の健康モリモリ守山数値＝ポイントの改善を指導する）。自転車のほか万歩計、ノルディックウォークのポールなどを貸し出す。

健康モリモリ守山ポイント＝万歩計の歩数、自転車の走行距離などによってポイントを付与。貯まったポイントに応じて健康マイスターなどの称号を与えるほか、おうみんちでの買い物、宿泊施設での館内利用券、市内商店街などで使えるようにする。

3. 観光まちづくりの具体策（6）

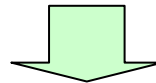
“観光＋健康のまち”を具現化する

・ 基盤を整える

観光＋健康のまち具現化のためにインフラを整備したい。

遊歩道、自転車道＝安全に歩け楽しめる健康遊歩道、健康サイクリングロードを整備する。ウォーキングコースを距離別をはじめ、視力増進の道（歩きながら視力検診ができる）や聴力増進の道（人工的な音が聞こえない）、痩身の道など目的別に設定する。おうみんちと地球市民の森を遊歩道で結ぶなど、観光資源間をつなぐ役割も持たせる。また、安心安全な専用道は誰もが観光しながら健康増進できることになる。

健康ポケットパーク、サイン＝遊歩道、自転車道の途中に健康増進器具を設置した公園や距離、消費カロリーなどが分かるサインを整備する。歩く楽しさを示す工夫を施す。住民の協力を得て、貸しトイレなどエイドステーションも要所要所に設けたい。



まちまるごと観光と健康のコミュニティテーマパーク化

3. 観光まちづくりの具体策（7）

“観光＋健康のまち”を具現化する

・イベントをつくる

観光＋健康のまちを内外に発信するイベントを開催する。

琵琶湖大橋健康ウォーク＝今年開通50周年を迎えることを機に、琵琶湖大橋を歩いて渡るウォーキングイベントを実施する。歩き方教室など健康セミナーを開催するとともに、途中で守山の特産を提供するエイドステーションを設け、守山宿は歩行者天国にしウォーキングイベント参加者以外にも楽しめるバルなどを展開する（これらは恒常的に開催したい）。

クナイプ療法＝前述の通り、水を使った療法として注目されているクナイプ療法を活用することを念頭に、おうみんちに足水、手水などを設ける。日本のクナイプ療法発祥地としてあまが池にも記念碑の設置を検討したい。医学系の大学など学術団体との連携を深める。

そのほか、健康ダンスコンテストや守山流ウォーキングスタイルを募るイベント、飛脚姿で中山道を走る駅伝等を行いたい。



3. 観光まちづくりの具体策（8）

“観光＋健康のまち”を具現化する

- ・ターゲットを絞る

観光と健康の融合によって、市民と観光客を含めて広く対象とすることができるが、特定のターゲットを設定することで、健康を実現するまちのイメージを醸成することもできる。

生活習慣病の改善＝例えば糖尿病の人を対象に、守山の野菜などを使った低カロリー食を提供し、地球市民の森や守山宿の散策を組み込む。途中、血糖値を測定するなどして、守山で健康になったことを実感してもらう。同様に腎臓に疾患がある人には減塩食を提供するなど「健康回復のまち」をアピールする。

レスパイトツーリズム＝日常的に家族を介護している人を対象に、一時的に介護を離れ守山でリラックスしてもらう。湖岸のホテルでゆったり過ごしたり、まちなかを散策し、地産地消の料理やスイーツが味わえるなどのプログラムを提案したい。

3. 観光まちづくりの具体策（9）

“観光＋健康のまち”で広域連携

他地域との連携も観光集客には欠かせない。守山観光に「健康」を付加したことで連携相手も具体的に見えてくるのではないだろうか。

- ・ **おごと温泉**＝対岸のおごと温泉は滋賀県を代表する宿泊拠点であり、宿泊の前後に旅館関係者とともに守山市に立ち寄るプログラムの開発も考えられる。温泉に、ウォーキングや健康食を加えることで、おごと温泉の宿泊価値も高まるのではないか。
- ・ **近隣市町**＝健康体験プログラム、健康食メニューの開発に伴い、連携する市町を広げていく。琵琶湖が「健康」のシンボルとして認知されるような取り組みを守山市がイニシアティブをとってほしい。
- ・ **健康都市ネットワーク**＝ヘルスツーリズム、メディカルツーリズム系の会議、セミナーを開催し、全国で同様に取り組む自治体などに参加を呼びかけたい。守山市の音頭でそれら関係者をネットワーク化し、国内外からの誘客に結びつけることが考えられる。

3. 観光まちづくりの具体策（10）

“観光＋健康のまち”を発信する



アドバイザー会議では、観光＋健康の“見える化”をスマートフォンのアプリで試行してみた。現在はパイロット版で、市内観光資源の位置情報など掲載情報は限られているが、将来的には健康スポット情報、ウォーキング時の消費カロリー情報、食情報などコンテンツの拡大が図れる。

情報更新は、市民（管理者の許可を得た人）が自ら行わなくてはならないので、観光まちづくりの体制づくりにも生かせられると考える。

守山なび

<http://moriyama-city.i2navi.net/>（PC版）



4. 直近の取り組みへの提案

市長が挙げた4つの切り口に対して

①自転車の活用

自転車道の整備（コースづくり）、乗り捨て可能なシステムづくり。
守山観光に健康を付加することで自転車の役割は明確になる



②湖上交通の方策

付加価値の創出＝湖上からの景観整備、漁船などの活用によるコストパフォーマンスの向上、成人病予防センターなどへの診察アクセスを兼ねた「通院船」の運航

③看板の設置

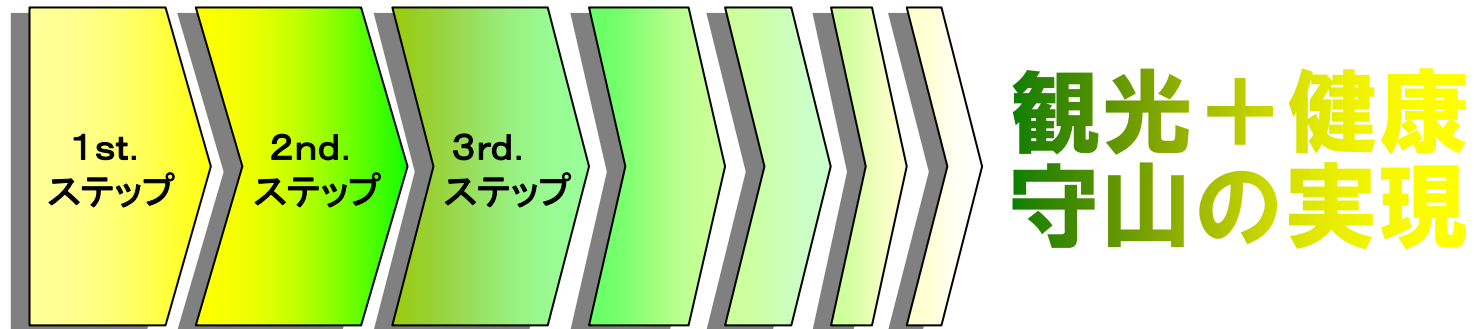
統一感のあるサイン整備。基準点（JR守山駅やピエリ守山など）からの消費カロリー数の掲示など健康情報をサインに加える

④道の駅

既存施設（おうみんち、ピエリ守山）の活用と市内観光の拠点としての位置づけ。「健康道（けんこうどう）の駅」などと近隣の道の駅との差別化

5. 観光まちづくりへの取り組み

本提案書の実現に向けてロードマップを記した。



1st. ステップ 26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖大橋開通50周年健康ウォーキング大会の開催（観光＋健康のキックオフイベント） ・「健康弁当」など食の開発—など 	3rd. ステップ 28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な旅行商品化の働きかけ、観光＋健康MICE（ヘルスツーリズムシンポジウム等）の誘致および実施 ・クナイプ療法の試行—など
2nd. ステップ 27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道、サインの整備着手 ・主要施設の「健康ステーション」化 ・「健康カルテ」「健康ポイント」の試行—など 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施主体＝市、商工会、JA、観光事業者、市民などで作る協議会を立ち上げる ・情報発信＝守山ナビの充実 ・連携＝医農工商＋観の連携深化 	